



三川小学校のスローガン **よく学び、よく遊べ！そして助け合う三川っ子！**

ゴミを拾って、運を拾う！

MLBのロサンゼルス・ドジャース所属のプロ野球・大谷翔平選手がゴミを拾う行動は、有名です。大谷選手は試合中にグラウンドのゴミやベンチのそばに落ちたゴミを拾うことがよくあり、その様子がメディアに取り上げられています。



実は、大谷選手は、2015年に稲葉篤紀さん（元日本代表監督、2021年に東京オリンピックで侍ジャパンを金メダルに導く。）が、ベンチ前のゴミを拾ったのを見て感動して、それを真似るようになったそうです。

彼自身はそれを「人が捨てた”運”を拾っている。」と表現しています。

しかし、大谷選手のゴミ拾いそのものに対する意識は、もっと前からあったと思われます。彼がゴミ拾いについて触れた最初の記述は、高校一年の頃にまでさかのぼります。

大谷選手が花巻東高校時代に作った「目標シート」があります。目指す目標「ドラフトで8球団以上から1位指名を受ける」、彼はこのことを達成するために必要な8つの課題を設定しました。

大谷翔平選手							
体の力	コントロール	PSQ	90km/h	スピード改善	体幹強化	軸のぶら下がり	角度を付けたボール
柔軟性	体づくり	RSQ	130km/h	コントロールの安定	コントロール	ボールを捉えやす	力まない
スタミナ	可動域	筋力	下半身の強化	体幹の強化	コントロール	ボールを捉えやす	軸のぶら下がり
コントロール	得意	頭は冷静	体づくり	コントロール	キレ	軸のぶら下がり	下半身の強化
スピード	メンタル	仲間を	メンタル	ドラフト	スピード	体幹強化	スピード
走塁	勝利への	信念	人間性	運	変化球	可動域	ライナー
感性	愛の人間性	感性	感性	感性	感性	感性	感性
思いやり	人間性	感謝	感謝	感謝	感謝	感謝	感謝
礼儀	親しい人間	継続力	継続力	継続力	継続力	継続力	継続力

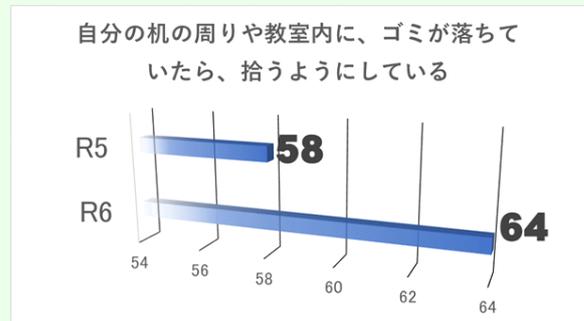
その中の1つが「運」。その運を身に付けるために「あいさつ」や「道具を大切に扱う」というものがあり、「ゴミ拾い」はその中の1つ。

これは当時の佐々木洋監督からの教えの一つであり、「ゴミは人が落とした運。ゴミを拾うことで運を拾うんだ。そして自分自身にツキを呼ぶ。」というものだそうです。



メジャーリーガーとなって誰からも認められる今となっても、一塁へ向かう途中にさりげなくゴミを拾いポケットに収める姿は、「全ての子どもたちの模範だ。」とアメリカや日本中に感動を与えました。

本校の学校評価アンケートに、「自分の机の周りや教室内にゴミが落ちていたら、拾うようにしている。」という項目（4～6年のみ）があります。令和5年度と比べて今年度は肯定的回答が6%も上がりました。



でも、まだまだ、64%はアンケートの20項目中最も低い状態です。100%を目指して、落ちているゴミに気づき、さっと運を拾うことのできる児童を、家庭と学校で協力して育てていきたいと考えています。

校長

チームで協力！縄跳び集会

1月31日(金)3校時に、全校児童で「縄跳び集会」を実施しました。進行は体育委員会児童。



まずは、準備体操。号令に合わせて、心身共に準備をします。



いよいよ、A～Jのチームに分かれ、長縄チャレンジです。目標は、チーム対抗ではなく、「これまでの自分たちのチーム記録を更新すること」です。円陣を組んで、士気を高めます。



3分間のチャレンジが始まりました。高学年児童が回し手になって、飛ぶタイミングを図ります。チームによっては、低学年児童が跳ぶとき、中・高学年児童が跳ぶときの掛け声や回し方を変えているところもありました。引っかかってしまった児童にも、「ドンマイ!」「大丈夫だよ。」と優しい声かけが聞かれました。異学年で交流すると、自然と思いやりの心が育っていくことが分かります。



結果、これまでの自分たちのチーム記録を更新したチームは、9チームとなりました。本番で、これまでの練習の成果を発揮できたことは、素晴らしいことです。



次は、短縄チャレンジ。自分ができる技を全校の前で披露しました。難しい技には自然と拍手が湧き上がりました。



当日は学校公開日で、2校時は授業参観、3校時は集会と、多くの保護者の皆さんが来校され、児童の頑張る姿をご覧いただきました。ありがとうございました。

どうやったら高くなるかな?

1月22日(水)に、2・3年生が、「図工のプロ」田村俊雄先生を招いて、図工ワークショップを体験しました。

課題は、「友達と協力して、できるだけ高く段ボールパーツを組み立てる!」です。

2・3年混合のグループ。始めは、それぞれが自分で組み立てます。次に、合体させて、大きな作品にします。時には



全員で離れて見て、全体のバランスを確認することも大事です。完成した作品には、グループ



みんなで話し合っって名前をつけました。片付け終了後、全員でワークショップを振り返りました。どのグループも満足な笑顔でした。



1月の読書賞

1月の読書賞は、1年の○○○○さん、3年の○○○○さん、○○○○さん、4年の○○○○さん、○○○○さんがそれぞれ1回目の受賞でした。お気に入りの本は、○○さんは「もふかわいヌ」(今泉忠明・作)、○○さんは「黒ねこのおきゃくさま」(ルース・エインズワース作)、○○さんは「鬼滅の刃」(吾峠呼世晴・原作 はのまきみ・著)○○さんは「はたらく細胞」(清水茜・作 時海結以・著)、○○さんは「BLACK JACK」(手塚治虫・作 瀬名秀明・著)だそうです。



家読(うちどく)一日10分(家で読書)へのご協力もよろしく願います。